甲 第 号

椿康輔 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	伊藤 利洋
論文審査担当者	委員	病院教授	山崎 正晴
	委員(指導教員)	教授	矢野 寿一

主論文

Molecular epidemiology and clinical characteristics of *Staphylococcus aureus* bacteremia in Japanese adults

日本人成人における黄色ブドウ球菌菌血症の分子疫学と臨床的特徴

Kohsuke Tsubaki, Kei Kasahara, Tomoko Asada, Ryuichi Nakano, Akiyo Nakano,
Keiichi Mikasa, Masahiko Kawaguchi, Hisakazu Yano

Journal of Infection and Chemotherapy 2025 Feb;31(2):102555

論文審査の要旨

黄色ブドウ球菌菌血症（SAB）は、薬剤耐性菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に注目が集まるが、近年、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）の割合が増加している。本研究は、日本人成人の SAB 症例を対象に、MRSA と MSSA の分子疫学的特徴と臨床像の関連を解析した。

18 歳以上の SAB 症例 90 例（MRSA 42 例、MSSA 48 例）を対象に解析を行った。MLST 解析では、市中感染型 MRSA である ST8 や、日本の主要な院内感染型 MRSA である ST764 が多く分離された。一方、MSSA では病原性の高い ST188 が多くみられ、全て DIC を発症していた。30 日死亡率は MRSA 群 19.0%、MSSA 群 10.4%であり、市中 MSSA 菌血症において診断と治療の遅れが感染性心内膜炎などの重篤な転移性病巣のリスクを高める可能性が示唆された。

公聴会では、分子疫学解析に MLST を選択した理由、特定の遺伝子型による具体的な臨床像、ST の変遷とバンコマイシン耐性との関係性、MSSA に着目した経緯などについて質問されたが、それぞれ適切に回答された。

本研究は、特定の遺伝子型を持つ黄色ブドウ球菌が臨床像や予後に影響を与えることを明らかにしたものであり、MSSA の臨床的意義も重視する必要性を示した。以上から、本研究は微生物学の発展に寄与するものであり、公聴会での質疑と合わせて学位授与に値すると判断する。

参 考 論 文

1. Prevalence of *Helicobacter pylori* among residents and their environments in the Nara prefecture, Japan
Horiuchi S, Nakano R, Nakano A, Hishiya N, Uno K, Suzuki Y, Kakuta N, Kakuta R, Tsubaki K, Jojima N, Yano H.
J Infect Public Health. 2021 Feb;14(2):271-275.
2. Molecular characteristics of extended-spectrum β -lactamase-producing *Klebsiella pneumoniae* in Japan: Predominance of CTX-M-15 and emergence of hypervirulent clones
Kakuta N, Nakano R, Nakano A, Suzuki Y, Masui T, Horiuchi S, Kakuta R, Tsubaki K, Ogawa M, Yano H. Int J Infect Dis. 2020 Sep;98:281-286.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに微生物学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和7年3月4日

学位審査委員長

免疫学

教授 伊藤 利洋

学位審査委員

臨床検査医学

病院教授 山崎 正晴

学位審査委員(指導教員)

微生物学

教授 矢野 寿一